

非典型的な脊髄半切症候群の臨床症状と検査所見に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026 年 9 月 9 日 ～ 2029 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 Brown-Séquard 症候群(脊髄半切症候群)の臨床症状および電気生理学的特徴に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕 脊髄半切症候群は典型的には、脊髄の半分の障害により、障害部以下の障害と同側の筋力低下や深部感覚障害、障害と対側の温痛覚障害をきたすことが知られていますが、障害部と同側で筋力低下も温痛覚障害も呈することがあり、我々はそれらは非典型的であるものの脊髄半切症候群の一つの病型であると考えています。脊髄半側での障害で、対側でなく同側で温痛覚障害をきたした例は、誤診されてしまったり、原因不明として不必要な追加検査が行われてしまう可能性もあります。このような非典型例は国内および海外でも報告数が非常に少ないですが、私たちは非典型例も数多く経験しており、国内のみならず国外に向けても報告の意義は大きいと考えています。また、臨床所見や画像所見のみならず電気生理学的所見も合わせた報告は非常に貴重です。本研究ではこれまであまり知られていない非典型的な脊髄半切症候群の臨床像を明らかにし、正確な診断に貢献することを目的とします。

〔研究意義〕 非典型例も含めて、脊髄半切症候群の疾患概念を再考し、脊髄半切が来たす臨床症状を同定できれば、意義が大きいと考えます。

〔対象・研究方法〕 2012 年 1 月 1 日以降～2026 年 6 月 30 日までの、帝京大学医学部附属脳神経内科及び共同研究機関(横浜労災病院)で筋電図検査を実施された患者様の臨床情報を後ろ向きに検討し、エントリ基準を設けて非典型的な脊髄半切症候群を抽出します。それらの症例の種々の臨床特徴と、電気生理学的所見、画像所見を検討します。共同研究機関のデータは帝京大学医学部附属脳神経内科が情報提供を受けたうえで、帝京大学で集計・解析を行います。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院脳神経内科学講座、横浜労災病院

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に情報を加工したデータとして情報管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及び情報管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式を DVD-R に記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センター(以下、「TARC」)にて保管されます。TARC による保管期間は研究終了から 10 年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARC により適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 氏名 神林隆道 職名 講師
所属: 帝京大学医学部脳神経内科学講座
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL : 03-3964-1211 (代表)